

2017 年 7 月 16 日修正・確定版

環境水等の放射性セシウムモニタリング コンソーシアム

平成 29 年度事業計画

1. 平成 29 年度の活動方針

本コンソーシアムは、環境水等の放射性セシウムモニタリング技術の普及・発展・技術の向上を図ることで、技術の信頼性を高めるとともに、合理的なモニタリングの実施、さらに国際社会への貢献を目的とする。本年度は、環境水等の放射性セシウムモニタリングコンソーシアムの二年目として、技術資料改定に関する分科会の本格化、精度評価試験の実施、国際的な連携を進めていく予定である。

2. 本年度の事業活動（WG 活動含む）

本年度実施する具体的な活動としては以下の通りである。

① 研究会の開催

2017 年度も継続して 2-3 回程度開催し、最新情報の共有、精度評価試験の結果のレビュー、分科会の成果報告などを行う。

② 技術研修会の開催

2017 年度も継続して、夏～冬に 1 回の開催を予定している。研究会と合わせて開催予定しており、現地サンプリング、前処理、濃縮等の一連のプロセスを学習する。昨年度と比較してより実践的な方法を検討する。

※研究会もしくは技術研修会については、日本環境測定分析協会 放射能測定分析技術研究会との連携、共催等も検討する。

③ 精度評価試験の実施

精度評価試験として、福島県内の環境水を用いた低濃度の淡水中の放射性セシウムの国内 PT を実施する。なお、IAEA との連携や、海水に関しての PT の実施も検討を継続していく。

④ 分科会の実施及び技術資料の改定

蒸発濃縮法および固液分離法を対象として、平成 27 年に出した技術資料に記載の手法および文部科学省マニュアルをベースとし、最新の知見および機材を取り入れた改訂案の作成、かつ再現性が低い原因を明らかにする。また、固液分

離法に関しては、ろ過フィルター径が結果に与える影響も含めた検討も行う。必要に応じて共通試験、精度評価試験を実施して、前処理のバラつきになる部分の明確化を目的とする。

- ・ 蒸発濃縮（リーダー：中西氏（JAEA）：予定）
- ・ 固液分離法（リーダー：申氏（東北農研）：予定）

3. コンソーシアムの運営

- 会長：保高徹生（産業技術総合研究所）
副会長：高橋堅（東京パワーテクノロジー）、上東浩（島津テクノリサーチ）
監事：菊池美保子（環境分析研究所）

アドバイザー：

- 恩田裕一（筑波大学）
- 信濃卓郎（東北農研）
- 林誠二（国環研）
- 塚田祥文（福島大学）
- 青野辰雄（放医研）
- 内田滋夫（放医研）

運営委員：

- 保高徹生
- 申文浩（東北農研）
- 辻英樹（国立環境研究所）
- 栗原モモ（産業技術総合研究所）
- 宮津進（農研機構 農工研）
- 中西貴宏（日本原子力研究開発機構）

事務局：保高徹生、栗原モモ

4. 本年度主なスケジュール（案）

- ・ 6月23日：総会、第3回研究会、第1回分科会
- ・ 8月～12月：第4回研究会、技術研修会
- ・ 10月-1月：国内PT（IAEA-PT）
- ・ 3月：第5回研究会

※分科会は適宜開催する。